

---

## 28 イギリスの天気

---

最高気温が0度を越えない日が2週間以上続き、いつまでたっても外の雪が消えないので、いいかげんいやになっていたが、ようやく今日は暖かくなった。こんなことを言うと、寒い地方の方には叱られるかもしれないが、最低気温がせいぜい0度を割るかかどうかという土地に住んでいると、この寒さはこたえる。

家族が日本に帰るので、ロンドンのヒースロー空港まで4時間ほど車を運転しなければならず、天気がどうなるのか、正月ごろからずっと気になっていた。12月にケンブリッジから帰るときに、途中で雪が降り始め、家までたどり着けるかどうかという苦労を味わったことがある。途中の自動車道は渋滞し、自宅の近くではついに積雪で車を道の脇にとめて、歩いて帰るはめになった。今回は遅れたら飛行機に乗れなくなるから、ふだんから心配性の私は、毎日天気予報を気にしていた。

普通は、イギリスの気温は、ロンドンの周辺が高く、北に行くにつれて低くなるのだが、今回の寒波は、少しパターンが違っていた。南のほうが寒いわりに、スコットランドの西のヘブリデス諸島では、最高気温が8度ぐらいになっていたりする。大陸からの寒気は、日本とは違って北東から張り出してくるのだが、それが、イギリスの南部のほうをおおっていたのだ。こういうことがあるので、慣れないと、イギリスの天気は予想がむずかしい。

11月の下旬に、イギリスの南岸のサウサンプトンに行った時に、この冬の最初の寒波に襲われた。路面は凍り、歩くのにも注意が必要だった。5年前には、私の妻は、この路面の凍結でものの見事に滑ってしまい、尾骨をひどく打って苦しんだことがある。注意しながら宿に着き、次の朝、車の霜取りが大変だろうと思いながら外に出ると、意外な光景が待ち受けていた。なんと、車が緑につつまれているのだ。緑の原因は、そばの銀杏の木で、一晩のうちに葉を落とし、車の上に5センチ以上積もってしまった。葉はほとんど黄色になっておらず、ぎんなんもあまり成熟していない。夏に十分暑くならないので、生育が遅れるのだろうか。イギリスでは柿も十分に実らないといていた。

イギリスの冬は、寒さもきびしいが、昼の短いのには、もっと驚かされる。10月末に夏時間が終わると、日の暮れが1時間早まるわけで、もう3時を過ぎる

と夕方を感じてしまう。いちばん昼の短いときは、7時間ぐらいだろうか。朝、ぐずぐずしていると、あっという間に一日が終わってしまう。もちろん、その分だけ、夏は昼が長くなる。夏に北の島のオークニーに行ったときには、いつまでたっても明るくて、いくらでも遺跡を見て回れるのでうれしかった。

霧とドウリズルも、いかにもイギリスらしい。車は昼間でもヘッドライトをつけていることがよくあるが、急に霧が出るせいもある。ドウリズルは、言葉のひびきにも表れているように、うっとりしい、しとしと雨だ。夏にドウリズルが何日も続くと、すっかり心までしめってしまう。

こんなことばかり書くと、イギリスの天気イメージが、ひどく悪くなってしまうが、もちろんそんなことはない。何より快適なのは、夏の蒸し暑さがないことだ。最高気温が30度を越えることはあるが、熱帯夜には悩まされず、寝苦しいことなどない。植物は春から秋まで、適度な気温と湿度で、ずっと成長を続ける。おかげで、葉はみずみずしく、虫や病気の害が少なく、あまり手入れをしなくても、きれいなバラが咲く。その点では、ほんとうにうらやましいと思う。